

太郎君のコレクション

太郎君は、音楽を聴くことが大好きです。今日も、一番のお気に入りの歌手のCDをレンタルビデオ屋で借りてきました。借りてきたCDをコンピュータを使ってコピーして、自分だけのオリジナルCDを作りました。

学校から帰ってきた太郎君は、コピーした最新アルバムのCDを何度も繰り返し聞いていました。

ちょうどその時、遊びに来ていた健二君が言いました。

「太郎君いいな。ぼくもこの曲聴きたいな。CDにコピーしてぼくにくれない?」

太郎君は、どうしようかしばらく考えました。自分が借りてきたCDをコピーしてひとあげてもいいのかと思っただのです。

迷う太郎君を見ていた健二君はいいました。

「大丈夫だよ、曲をコピーしてもだれにも迷惑かけたりしなでしょ」

大の親友である健二君の言うことです。

結局、太郎君は、新しいCDに曲をコピーして健二君に渡しました。その日の夜です。

健二君は、コピーしてもらったCDをCDカセットで聴いていました。そこに仕事から帰ってきたお父さんがやってきました。

お父さんは、映画を作る会社で働いています。カメラを写す人、映像を編集する人など、いつもたくさんの人と一緒に働いているのです。

楽しそうに音楽を聴く健二君を見て声をかけました。

「健二、楽しそうだね。新しいCDを買ったのかい?」

健二君は、ニコニコしながら答えました。

「違うよ。今日、太郎君の家に遊びに行ったときにコピーしてもらったんだ」
それを聴いたお父さんの表情が少し曇りました。

健二君は、相変わらずリズムに乗って体を動かしながら曲を聴いています。

お父さんは、健二君の肩をたたいて振り向かせると、CDカセットのスイッチを突然切りました。

お父さんの表情を見て健二君は驚きました。

健二君をまっすぐに見つめながらお父さんは言いました。

「本当に、だれにも迷惑をかけていないかな?」

しばらく考えていた健二君はハツとした表情を浮かべました。